

秋田の学校のヒミツ（その1）



「いい子供が育つ都道府県ランキング」という調査結果がある。ここで、宮崎は何と全国トップである。

これは毎年実施されている「全国学力テスト」の中から「学力」以外の「子供の育ちの質」を取り出して分析し、ある民間研究所がランキングしたものである。46の設問への子供たちの回答をもとに分析されている。例えば、「家の人と学校での出来事について話をしていますか」「家の手伝いをしていますか」「地域の大人からほめられたことがありますか」という問いに「はい」と答えた子供の比率が、宮崎は全国トップなのである。これは、とても素晴らしいことだと思う。宮崎の子供や保護者、先生、地域の方々は、もっともっと誇りと自信を持っていると思う。

私が気になったことは、秋田はこのランキングで宮崎と肩を並べてトップでありながら、「学力」でもダントツで日本一を叩きつけていることだった。一方で、今年、宮崎の「学力」は全国平均を下回る結果になってしまった。この違いはどこから生じてきたのだろうか？秋田の教育現場に有って、宮崎に無いものとは一体何なのだろうか？という疑問が、いろいろな方々に聞いても解けなかった。

そこで、思い切って秋田の学校を訪ねてみることにした。私にとっては、「百

聞は一見に如かず」だった。学校教育のことはほとんど何も知らない自分だからこそ見えたものがあるのかもしれない。



秋田県北部のある中学校の中学1年生の数学の授業を参観させてもらった。若い男性の先生が担当教師でもう二人ベテランの女性の先生と二人での授業だった。これはチームティーチングといって、全国でもよく行われている方式なのだそうだ。授業を聞きながら、「ウーン」と唸ってしまつた。二人の先生の息がピッタリと合っている。二人の先生の息がピッタリと合っている。先生同士がアドリブで掛け合いをしながら、お互いに学び合っているような感じがとても印象的だった。日頃から先生同士の仲が良く、チームワークも深まっつていて、お互いに信じ合つて助け合っている仲間という風土が感じているに違いないと感じた。

そっだ、これは先だつて見た映画「みんなの学校」での仲の良い先生たちの姿と同じではないか。

文/日向市キャリア教育支援センター長

水永 正憲